

・第6回国際シンポジウム「アジアにおける資源探査」開催	①	・海外出張報告	①
・「アジアにおける資源探査」開催	(1)	①セルビア共和国	(3)
・移転のお知らせ	(1)	②モンゴル	(3)
・中学生のセンター訪問	(2)	③カザフスタン	(4)
・資源学ショートステイプログラム2012の開催	(2)	・INFORMATION	(4)
・モンゴル科学技術大学に初の海外事務所開設	(2)	・今後の活動予定	(4)
・資源・素材教育センター	(3)	・編集後記	(4)
・夏季集中合宿講座への協力	(3)		

ICREMER News

International Center for Research and Education on Mineral and Energy Resources, Akita University

海外出張報告 | カザフスタン

別所 昌彦 (BESSHO Masahiko, ICREMER教員)

大学間協定が締結された昨年6月以来、私にとって2度目となる東カザフスタン工科大学 (EKSTU) への訪問は、8月22日より今井亮教授・高崎准教授・緒方助教を含めた4名で行われました。これまでICREMERでは、SSプログラムへのEKSTUの大学院生参加や、カザフスタン独立20周年記念会議への出席など順調な連携がなされています。今回の訪問では、Gavrilenko副学長、Kulenova教授、Mizernaya教授らに協力を頂き、おもに共同研究などに関する協議に関連したフィールド調査を中心に行いました。

フィールド調査では、Gavrilenko副学長も同行され、2日間にわたり、ウスチ-カメノゴルスク近郊にあるKarman-kuzなど4か所の鉱床を訪れ、シリカ資源の高度利用に関する研究の試料として、数多くの石英サンプルを採取しました。また、採鉱・冶金学部のKalioldanovich学部長との面会の際、今後の秋田大学との連携の発展について話があったほか、10月に行われるSSプログラム参加予定のAigulさんとの面談や、昨年SSプログラムに参加したAlman君のサポートのもと、オーストラリアからの短期留学生とSekisovskoyoにある金鉱山の工場見学を行う事が出来ました。

今回の訪問を基点として、研究においてもEKSTUとの協力関係を発展させていければと思います。



Gavrilenko副学長らとの打ち合わせ (東カザフ工科大にて)



東カザフスタン工科大学キャンパス



Karman-kuz鉱床



鉱床での試料採取

ICREMER 今後の活動予定

- 10月～3月
安達教授 海外研修
(オーストラリア・カーティン大学：秋田大学研究者海外派遣事業)
- 10月15日～11月9日
ショートステイプログラム2012
- 3月13日、15日 (予定)
国際シンポジウム開催 (東京、秋田)

編集後記

新年度からスタッフの人数も増え、専任教員研究室の移転作業も順次、終了しました。体制の強化に見合うよう、学内外の皆様のご協力をいただきながら、ますます充実した活動を行っていきたく思います。よろしくお願ひ申し上げます。

鈴木奈美子

(SUZUKI Namiko, 国際課・国際資源学教育研究センター担当主査)

INFORMATION

- *平成24年度科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)) に安達毅教授の課題が新規採択されました。そのほかにも各教員が公的機関や民間機関等との共同研究をおこなうなど、外部資金による研究を推進しています。
- *ICREMER平成23年度活動報告書を発行しました。ご希望の方はICREMER事務室までご連絡ください。
- *ICREMERニュースのバックナンバーは、ホームページからご覧いただけます。

秋田大学国際資源学教育研究センター

〒010-0852 秋田市手形学園町 1-1
Tel: 018-889-2810 Fax: 018-889-3012
E-mail: sigen@jimu.akita-u.ac.jp
HP: http://www.akita-u.ac.jp/icremer/

第6回国際シンポジウム「アジアにおける資源探査」開催

地下資源、特に金属資源を巡る国際競争は、熾烈を極めていますが、金属資源の安定確保は、日本産業の生命線となっています。一方で、資源保有国においても貴重な資源を有効に活用し自国の開発につなげるために、資源系機関の強化と資源技術者養成に熱心に取り組んでいます。

国際資源学教育研究センターは、このような資源を取り巻く国際状況を踏まえ、資源保有国の組織と人材育成の協力に加え、日本国内の資源関係者の養成と資源学の発展に取り組んで来ましたが、この一環として平成24年7月2日に今年度最初の国際シンポジウムを、秋田大学鉱業博物館講堂を会場に開催しました。「アジアにおける資源探査 (Mineral exploration in Asia)」をテーマに、アジア各国からお招きした研究者だけでなく資源企業の探査技術者による講演のほか、ICREMER教員も研究成果の発表を行いました。

西田真副学長の開会挨拶に引き続き、ミャンマー出身でオーストラリア・タスマニア大学教授のKhin Zaw教授が「東南アジアのテクトニクスと金属生成区」と題して講演されました。続いてICREMERの緒方武幸助教が、「モンゴル国南西部の塊状硫化物鉱床のポテンシャルについて」として、協定校であるモンゴル科学技術大学との共同研究の成果を発表しました。さらに、フィリピンのフレックス・マイニング社のVictor Maglambayan探査部長から、「フィリピン国ベンゲット地域サント・トマスⅡ斑岩銅一金鉱体下位の後期金鉱化作用」と題した講演がありました。

休憩をはさみ、「インドネシア国バツ・ヒジャウ斑岩銅金鉱床：12年における採掘から得たもの」として、PTニューモント・ヌサ・テンガラ社のDudy Setyandhaka探査部長が講演されました。最後に、黒鉱鉱床研究でも著名なタイ国チュラロンコン大学のVisut Pisutha-Arnond教授が「タイ国西部カンチャナブリ・コランダム鉱床における貴石の産状とその成因」と題した講演を行いました。

午前中だけという限られた時間でしたが、どの講演・発表も予定時間を超える熱の入ったものとなり、本学工学資源学部・工学資源学研究所の学生を中心とした約60名の参加者が真剣に聞き入りました。



移転のお知らせ

国際資源学教育研究センターは、手形キャンパス内で移転を行いました。これまでは専任教員の研究室がキャンパス内各所に点在していましたが、やっと同一の建物に集結することができました。なお、移転後の電話番号、メールアドレス等に変更はありません。

年度内には同建物内に実験室や講義室の改修も完了する予定です。

移転先はこちらです。



建物外観

センター長室での打合せ

Topics

中学生のセンター訪問

秋田大学教育文化学部附属中学校の2年生4名が、総合的学習の一環で平成24年8月8日に当センターを訪問しました。岩石や鉱物資源に興味があり、訪問先に当センターを選んだということです。

水田センター長からの秋田大学と当センターの概要説明に始まり、事前に提出されていた質問に沿って①資源探査の最先端技術、②日本の資源外交、③使われた資源の再利用の3つのテーマについて、それぞれの分野を専門とする専任教員が講義を行いました。その後は、大学内VBLと鉱業博物館を教員等の案内で見学しました。

長時間にわたる講義・見学となりましたが、最後まで熱心に取り組んでいる姿が印象的でした。また後日、中学生の感想が記された丁寧なお礼状が届き、関係者一同であらためて感動しました。お礼状は了承を得てICREMERのHPに掲載させていただきました。



安達教授による講義

Topics

資源学ショートステイプログラム2012の開催

平成24年10月15日(月)～11月9日(金)の予定で、昨年度に引き続き資源学ショートステイプログラムを開催しています。今年度は「持続可能な国際資源学SSプログラム2012」と題して、モンゴル、ボツワナ、カザフスタンから各3名の計9名の研修生を受け入れています。

研修生たちは、約1カ月のプログラムで、資源学に関する各分野の集中講義をはじめ、秋田県や周辺地域の鉱山跡地や資源リサイクル関連企業・鉱废水处理施設の現場見学、専門分野の個別研究・実習を行います。今年度のコースは昨年の経験を踏まえて、各国2名から各国3名へと参加者を増やすなど、より充実したプログラムとなるよう準備をすすめてきました。去年の研修生からは前号でご紹介したコイツウェさんに続き、同じくボツワナ大学から参加したディネオさんが、在ボツワナ日本大使館からの推薦を受けて本学への留学に向けて準備を進めています。

なお、今年度のプログラムは、日本学術振興会研究拠点形成事業(B.アジア・アフリカ学術基盤形成型)および日本学生支援機構留学生交流支援制度(ショートステイ)の支援を受けて行われます。



吉村学長の歓迎の挨拶

Topics

モンゴル科学技術大学に初の海外事務所開設

平成24年10月8日、モンゴル科学技術大学に秋田大学初の海外事務所が開設しました。開所式では、ICREMERセンター長の水田敏夫教授も参加し、テープカットを行いました。それに先立って行われた署名式において、モンゴル科技大バヤンドゥレン学長他の要人に対して国際資源学教育研究センターの概要を説明しました。

モンゴル科技大との交流は、水田教授が約10年前から実施している銅-亜鉛鉱床の資源調査が最初ですが、最近では、地球資源学専攻(ICREMER学内協力教員)の今井教授やICREMERの緒方助教が頻りに同国を訪問し、両大学の大学院生の地質調査、卒業研究等の実施を支援しています。

モンゴル科技大に秋田大学事務所が開設されたことで、緒方助教などのモンゴルにおける活動の足場が築かれたこととなります。同事務所を拠点に、眠れる資源大国モンゴルでの地質調査が飛躍的に進み、両大学間の協力が一層、強化されることが期待されています。



テープカットを行う水田センター長(左端)

Topics

資源・素材教育センター夏季集中合宿講座への協力

一般社団法人資源・素材学会「資源・素材教育センター」が主催した平成24年度「資源・素材夏季集中合宿講座」が平成24年8月19日～29日に東京都で開催されました。当センターでは講師の派遣と教材作成への協力を行いました。この合宿講座は、鉱物資源の開発から非鉄金属の製・精錬、素材の製造に至る一連の技術に加えて、資源循環(リサイクル)、環境保全や資源経済も含む全体像についての基礎から実践までを、全国の大学生、大学院生が大学、研究機関、企業の第一人者から学ぶ機会として毎年、開催されているものです。

今回はICREMER専任教員の安達毅教授が「資源の経済・ファイナンス」、増田副センター長が「採鉱学の基礎」の授業を担当したほか、学内協力教員(工学資源学研究科)の今井亮教授が「資源開発における地質・鉱床」の授業を行いました。またVBLからは芳賀一寿特任助教がグループ討議・英語プレゼン監督として参加しました。

海外出張報告 | セルビア共和国

高崎 康志 (TAKASAKI Yasushi, ICREMER教員)

JICA科学技術研究員派遣事業(代表 石山大三教授)により7月14日から22日にかけて、セルビア環境省とMMI(Mining and Metallurgy Institute) Bor研究所を訪問しました。今回は日本側参加者として、柴山敦教授(ICREMER学内協力教員、工学資源学研究科)、増田信行准教授、高崎康志准教授(以上ICREMER教員)がJICAの依頼により参加しました。セルビア側からは鉱工業の環境対策に関する強い意欲が示され、日本側にさらなる協力を要請されました。MMI Bor研究所では日本側で行った尾鉱からの金属回収に関する試験報告を行い、今後の研究方針について話し合いが行われました。その後、浸出実験等を行い、得られた結果から問題点等を見出し、日本側で追加試験を行うこととしました。また、尾鉱ダムや河川の合流地点などを見学しました。



MMI Borでの打ち合わせ風景



尾鉱ダム風景

海外出張報告 | モンゴル

緒方 武幸 (OGATA Takeyuki, ICREMER教員)

モンゴル科学技術大学との間で、2009年10月に全学協力協定が締結されました。それ以来、現在までに当センターの水田敏夫教授、工学資源学研究科地球資源学科の今井亮教授(ICREMER学内協力教員)、モンゴル科学技術大学Jargalan教授と共同でレア・アース鉱床、黒鉱型鉱床やモリブデン鉱床の研究を行っています。

今年度は、7月19日～8月2日と9月9日～21日の日程で2回の地質調査を行いました。前半は、今井亮教授による産総研からの委託研究「中央アジアの貫入岩類に伴われる希土類元素の高品位濃集部の形成条件の解明と資源ポテンシャル評価」の一環として、中央モンゴルのレア・アース鉱床地で本学工学資源学部学生2名を同伴し地質調査を行いました。後半は、協定校であるモンゴル科学技術大学から秋田大学大学院に留学中のJamsran Erdenebayarさんの研究指導を行いました。現地での研究指導や議論は、フィールドを重視する鉱床学研究にとって意義のあるものでした。今後も、資源開発の最前線であるモンゴルでの共同研究や交流に積極的に取り組んでいきたいと思っております。



ハラティアガンでの現地指導